

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200152		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム浜松根洗 (第1ユニット)		
所在地	静岡県浜松市北区根洗町738-2		
自己評価作成日	令和4年1月9日	評価結果市町村受理日	令和4年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.katgokensaku.mhlw.go.jp/zzz/index.php?action_kouyuu_detail_022_kani=true&lievsvoCd=2295300095-

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年2月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様が穏やかなお気持ちで、日常生活を送っていただけるよう個々の力を最大限に生かし、可能な限り今までの趣味や嗜好が継続する事ができるよう支援しています。事業所開設10年を迎え、ご入居期間が長くなるほど、ご家族様からも支援への理解を深めて下さり施設への愛着を感じてくださっております。また、独自の「自立支援ケア」への取り組みを開始し、身体機能・栄養状態の維持改善を図り、BPSDやADLの改善をを旨とし、ご利用者様が望む生活の実現に向けて取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍でも毎月複数の所内企画を催し、事業所通信や運営推進会議活動報告に添えられる写真は躍動感にあふれ、充実した暮らし向きがうかがえます。運動や栄養、水分に関するプログラムを実施して、その人が持つ本来の力を引き出すことを目的とした「自立支援ケア」への取り組みを、今年度4月より法人全体で開始しています。エビデンスに基づいたそのケアは、「全介助だった人が自分で箸を持って口まで運ぼうとした」「暴言が減り穏やかになった」「便秘が解消し、下剤が不用となった」等、様々な効果となって表れ、その変容を語る職員も張り合いを感じています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念においては一部変更がなされ、理念実現の為に朝礼時に唱和をしている。職員において浸透までには至っておらず、毎日の行動指針となるよう意識付けしている。	昨年12月より、本社教育研修課により中途採用職員への研修を開始して理念を解説するとともに、「理念ブック」も配付され、法人をあげてその浸透に力を注いでいます。事業所では実践を振り返る機会を作りましたが、定期化できておらず再開の方策を探っています。	3ヶ月ごとの個人面談が定着しているので、個人目標に関連づける等、理念の実践が日常のケアに意識されることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により地域との交流は一時途絶えたが、コロナ禍でも距離を保ちつつ、関係が維持できるよう努めている。	事業所広報誌「めいちゃん便り」を季節ごとに発行して地域に回覧し、直接的なふれあいはないものの、近隣施設の園児たちとプレゼントを贈り合い、高校生による屋外の環境整備、健康サロンの参加者による花壇整備等、開設10年を経て相互の支え合いが確立しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けて季節ごとに広報を発行し、活動・支援の様子を発信している。コロナ前では、地域の方に向けて、健康サロンを開催し、健康寿命の延伸や認知症予防に繋げていただく事ができるよう活動を実践しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	健康サロンの活発な運営に向けた相談や、弊社が取り組んでいる「自立支援ケア」の取り組みの結果・報告を行いました。コロナにより書面開催でしたが、ご意見・ご感想をご返答いただいている。	書面開催として、2ヶ月ごとに入居状況、コメントと写真を添えた活動報告を自治会長、副自治会長、民生委員、市介護保険課、地域包括支援センター、近隣施設に郵送しています。ファクスやメールで届くご意見欄には、アイデアを凝らした季節行事への称賛が並んでいます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に運営推進会議を通じて、活動やケアサービスについてお伝えしている。	運営推進会議の議事録を通して、入居状況や事故報告、活動報告やトピックスを伝えて連携を図るとともに、事業所における取組みの透明性確保に努めています。事業所の行事企画への評価や感染対策への注意喚起も含め、毎回議事録への返信をもらっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や虐待防止に向け、3か月に一度研修を行っている。日頃の支援の中で、身体拘束と考えられる行為はないか振り返り、話し合いを行っている。玄関やフロアドアの施錠をすることでご利用者様に与える影響について、理解を深めるよう努めている。	2ヶ月ごとに法人で定められたチェックシートでケアを振り返り、身体拘束廃止委員会においてできていない項目の改善方法を検討し、認知症を抱える人の行動特性への理解や、介助が重なった際の工夫や感情コントロール等、不適切ケアにつながらない策を講じています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間の研修の中で、学習している。2か月に一度、身体拘束や虐待・不適切なケアが行われていないか、チェックシートを用いて、虐待や身体拘束を未然に防止するよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の研修の中で、学習している。実際に活用をされている方もいらっしゃる。ご相談いただいたときにパンフレットなどすぐに提供できるよう準備しておきたいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、時間をかけてゆっくりとわかりやすいよう説明している。読み合わせや都度、疑問点を尋ね、納得していただいた上で締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者が日常の中で発せられる言葉や表情より気持ちや汲み取り、ケアに生かしている。ご家族からの要望はケアプラン説明時に、意見や要望を収集するよう努めている。	3ヶ月ごとの介護計画の説明に加え、表情がわかる写真や、担当職員による「生活の様子」、管理者からの「健康の様子」が書き添えられた個人宛て事業所通信「うなぎのぼり」を毎月発送しています。日々の営みがこまめに知らされ、アンケートからも満足度の高さが伝わります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議にて意見や提案する機会を設け、環境整備や働きやすい職場環境作りを目指している。	管理者は3ヶ月ごとに個人面談を設け、コロナ禍で全体会議を避けてユニット会議としていますが、勤務後のコーヒープレイクの雰囲気や自由に発言できるよう促し、業務の流れの見直しや、恒例行事に新しいアイデアを取り入れるなど、その意見が活かされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談を通じて、個々の目標の把握や、自身の持ち味を生かし、やりがいに繋げていくことができるよう努めている。また、業務を見直し労働環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ここ数年はコロナ禍の為、社内研修のみにとどまっている。中途採用においては、教育研修課による研修も開始されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が同業者と交流する機会は、ほとんど実施されていない。今後相互訪問の機会を持ち、サービスの質の向上に努めたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期においては、事前に情報を収集したり面談を通して本人がどのような事に困っているのか、不安は何か耳を傾け、まず環境に慣れていただく事に重点を置くと共に、その方の生活リズムに添いながら、安全面にも配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居見学や契約時から、ご家族の困りごとの把握に努め、ご利用者がその人らしい生活を送っていただけるよう要望に添えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階では、環境の変化への適応を優先し、安全面や他者との関係を含め居心地の良い生活の場所となるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の認知レベルや能力に応じて、日常の中でそれぞれの役割を担いながら、共同して生活が営めている事が実感できるよう取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者に対するご家族様の思いを大切にし、共に現状における問題点や穏やかな生活への提案など話し合いながら検討している。		
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所等、コロナ禍で自粛することにより、途絶えてしまっている。このような状況下でも可能な事においてはあきらめずに今後実践していきたい。	面会は自粛となっていますが、家族とはリモートによる会話や手紙のやり取りがおこなわれています。朝6時に起床して朝刊に目を通す習慣を続ける姿や、好きなコーヒーを自分で淹れる人が「この時間が一番好きなの」と語る表情に、職員も和むひとときです。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お一人お一人の性格や認知面に配慮しながら、利用者同士が会話を楽しんだり、活動を共にする事で関わりあえるよう取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去され、ご利用者様のご家族様から、ご連絡をいただくことが多く、葬儀に参列し最後のお別れをさせていただいている。また、1回忌をお迎えになられる頃にお手紙をご家族様へお出しお気持ちをお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の様子や日常の中から発せられるお言葉から希望や意向の把握に努め、難しい場合にはご家族様の意向を踏まえどのような生活を望んでいるのが模索している。サービス担当者会議にご利用者様にもご参加いただき、直接意向を確認させていただいている方もいらっしゃる。	何気なくこぼれた言葉を拾い、仕草や表情を観察しながら、一人ひとりの思いや希望の把握に努めています。介護記録につぶやきを記し、精神面や身体面、本人の困りごとを焦点化しながら、援助が必要な点をサービス内容に落とし込んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や、入居前のサービス事業所から生活に関わる情報の収集をお行い、自身の生活ペースに近づけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の認知面・身体面の把握に努め、その方に応じた過ごし方・活動へとお誘いしている。ご本人が得意な事に着目し、継続できるようサポートしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の様子やサービス担当者会議にて、その方が生き生きと穏やかに過ごしている場面を共有し、身体面や認知面の現状に合わせ、有する能力を見極めながら介護計画に反映している。	計画作成担当(介護支援専門員)を各ユニットに配置し、毎月、居室担当職員が気づきや状態変化を記載する「気づきシート」をモニタリングに活かしています。家族には第3表の「日課計画表」から食事や睡眠、入浴、排泄等の具体的援助と方法を説明して現状を伝えています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	認知面や身体面の変化など日々の生活状況を把握し、記録や会議等にて職員間での共有を図り、介護計画や実践の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	馴染みのホームにて最期を迎えたいとの要望に応えられるよう可能な限り生活の継続に向け支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協が開催する講座へと参加したり、施設が開催してきたロコトレサロン等、健康にも着目しつつ、地域と関わる事で心の豊かさを支援する事ができた。また、入所前の今まで活用されてきた社会資源を継続・活用する事ができるよう情報の収集に努めていく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の往診医、月2回の訪問診療を取り入れ、ご家族様が希望する医療の添えるようかかりつけ医を選択していただいている。異変時には適宜相談・報告を行い、必要に応じて総合病院・専門機関へと繋げている。	終末期までの体制を備えた協力医に全員が変更しています。法人看護師による「看護報告書」をもって連携を図り、訪問診療の記録は往診専用ファイルに記録しています。また、口腔衛生管理体制を整え、歯科医師による訪問診療をおこなっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師による健康管理を行い、介護職も日々の気づきを伝え、相談・報告を行い助言や指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病状の説明の際には、管理者が同席させていただき、早期にホームでの生活が可能となるようご家族様や相談員との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設での看取りを希望される方には、事業所で行える事を十分に説明し、話し合いや意向の確認を何度か行っている。また、あらかじめ、どのような意向を持たれているのか、把握を行い、先々のことにおいて安心していただけるよう努めている。	契約時は「看取りの指針」の書面に基づいて同意を得ており、この2年間で2名をお見送りしています。法人資料から看取りの心構えを学び、全く経験のない職員には「日々の暮らしの延長線上にあるもの」と伝え、カンファレンスの都度、受け止め方を話合っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応を研修に取り入れ、周知を図っている。消防によるAEDの使用法の指導を受け、訓練を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練や防災研修の中で、避難方法の周知・確認を行っている。地域との連携や関係がコロナ禍により希薄になっている。再度地域との連携に努めていきます。	日中・夜間想定を含めた訓練と、「防火用自主点検表」に基づくチェック体制があり、消防隊員の指示を仰いでAEDの使用方も学んでいます。土砂災害や水害の危険は少ない地域ですが、火災時や大規模災害時の地域との協力体制においては今後の課題となっています。	職員の入替えにより、訓練内容の体験に偏りがあることが課題となっています。一覧表を作成して体験した内容をチェックする等、均一化を期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみの中にも、人格を尊重がなされるよう言葉かけに注意を払っている。日々の関わりの中で不適切な声かけや対応がないか目配りし、のちに会議などを通じて改善に努めている。	「会話の際には必ず「しゃがむ」もしくは利用者の目の位置より自身の目が下になる体勢を保持する」、「利用者の情報を共有する時には小声で」と法人で統一した指導をおこなっています。入浴時、脱衣後はタオルをかける、同性介助など羞恥心への配慮も慣行されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の関わりの中で、表情や仕草、ちょっとした言動より思いや自己決定に繋がる糸口を見つけられるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その方の自己決定の状況を見ながら、できる限りご自身のペースにて過ごしていただけるよう努めている。その方の様子や希望も受け入れながら過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お手伝いが必要な方にはサポートを行い、自己完結できる方には、物品の準備を行い、その方が身だしなみを自発的に行ってくださいよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の認知面やその時々様子を見ながら、盛り付けや汁物作り等職員とご利用者様が共同して食事の準備を行っている。	事業所内で調理スタッフが手作りし、利用者を変えた恵方巻や餃子、おはぎ作りなど、コロナ禍でも衛生管理を考慮しながら時節のメニューで彩りを添えています。冬恒例の手打ちうどんでは、うどん生地足踏み工程や麺棒での伸ばしに、隠れた才能を発揮する人もありました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	採血結果や日々の食事量・水分量の把握を行い、必要に応じて、栄養補助食品の導入や食材のコントロールを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の状態が身体の及ぼす影響も考慮しながら、個々の状態の合わせ口腔ケアの促しや、入床前に全員の口腔ケアを実施している。また、月2回の訪問歯科により、口腔内の管理がなされている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立した排泄が行われるよう認知面・身体面を観察しながら、個々の力を生かせるよう努めている。状態に合わせて、リハビリパンツから布パンツへの移行を常に検討している。	「水分を取る」ことを中心に進める自立支援ケアによって、日中のトイレ回数増加に伴って腎臓の活動が活発になり、夜間はその活動が落ち着いてトイレ回数も減少し、安眠へとつながっています。さらに便通が良くなり、下剤の内服量が減少するなど、その効果が表れています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	独自の自立支援ケアにおいて、水分を日々1500cc以上摂取していただくことに取り組むことで便秘解消へと繋がり、下剤の内服もほとんどなくなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴が基本となり、一人一人のタイミングに合わせる事は実践がなされていない。入浴を楽しんでいただけるよう「お楽しみ風呂」を毎月開催し、季節に応じた入浴をお楽しみいただいている。	「お楽しみ風呂」は年間計画が立てられ、5月の菖蒲湯をはじめ、8月のソーダ湯(炭酸)、1月の牛乳風呂、3月のよもぎ湯など、入浴前から香りを満喫する利用者の様子に「今度はこれどう?」と持ち寄る職員の姿もあり、やりがいにつながっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息を希望される時には、その理由もさりげなく確認しながら見守っている。日中には活動へとお誘いし、メリハリのある生活をしていただく事で夜間の安眠へと繋げられるよう努めている。また、その方が安眠できるよう体勢をとれるよう寝具の調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の内容の確認を行い、薬の目的や効果の理解に努めている。また、内服薬の変更がある際には、周知を図り、状態の変化や効果の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の今までの生活歴や趣味等から、継続して行う事が可能な事においては、模索やサポートしている。また、施設での役割が担えるよう役割分担を行いながらその方の力が生かせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により外出は控えており、希望に沿った外出は実現できていない。散歩においては、可能なかぎり要望に添う事ができるよう努めている。	ADL低下予防のためにケアビクスやリハビリ体操、事業所内の歩行など介護計画に位置づけ、散歩は偏りなく支援できるよう散歩記録をつけています。感染者数が落ち着いた折には万葉の森まで散策に出かけ、久しぶりの外出を満喫しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身での金銭管理が困難な事やトラブル回避の為、ほとんどの方がお金を所持する事はない。外出の自粛が解除された際には、買い物時には、ご自身で支払いをする等の支援を実践していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様の希望もあり、手紙を送っていただいたり、リモートでの会話を楽しんでいただいている。年末には、年賀状をご家族様宛に書いていただいたり、困難な方には、職員が代筆し、お気持ちが伝えられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースには、ご利用者様の季節に応じて制作された作品を掲示し意欲向上に努めている。利用者が発する音においても周りの方が不快になる事が無いよう工夫している。	テーブルや椅子、コンタクトポイント、床は薬剤で拭きあげ感染予防に努めています。カラオケの音量を調整したり、テーブルを指先で叩く音が気になる場合はマットを敷いて音を軽減させるなど、周囲とのトラブルを未然に防いで、共用空間が居心地よく過ごせるよう考慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の性格や認知レベルを考慮し、それぞれの方が落ち着いて過ごしていただけるよう座席を決定したり、他者の視線を回避できるような居場所の確保など気配りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、馴染みものをお持ち込みいただけるようお伝えしている。また、新たに制作した作品などを飾り、自身の空間作りをされている方もいらっしゃる。	鏡台やミニタンス、遺影や位牌などが持ち込まれ、馴染みある空間の構成に役立っています。家具やベッド、車いす、シルバーカー等の配置を都度見直し、一人ひとりのその時の状態に応じて転倒リスクがないよう改善しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の動線におけるリスクマネジメントを行い、安全に移動がなされるよう注意を払っている。また、居室内においても、身体・認知レベルに応じて環境の見直しを図っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2297200152		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム浜松根洗 (第2ユニット)		
所在地	静岡県浜松市北区根洗町738-2		
自己評価作成日	令和4年1月9日	評価結果市町村受理日	令和4年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan1=true&kijiyosyoCd=2295300095-00&ServiceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年2月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様が穏やかなお気持ちで、日常生活を送っていただけるよう個々の力を最大限に生かし、可能な限り今までの趣味や嗜好が継続する事ができるよう支援しています。事業所開設10年を迎え、ご入居期間が長くなるほど、ご家族様からも支援への理解を深めて下さり施設への愛着を感じてくださっております。また、独自の「自立支援ケア」への取り組みを開始し、身体機能・栄養状態の維持改善を図り、BPSDやADLの改善をを旨とし、ご利用者様が望む生活の実現に向けて取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍でも毎月複数の所内企画を催し、事業所通信や運営推進会議活動報告に添えられる写真は躍動感にあふれ、充実した暮らし向きがうかがえます。運動や栄養、水分に関するプログラムを実施して、その人が持つ本来の力を引き出すことを目的とした「自立支援ケア」への取り組みを、今年度4月より法人全体で開始しています。エビデンスに基づいたそのケアは、「全介助だった人が自分で箸を持って口まで運ぼうとした」「暴言が減り穏やかになった」「便秘が解消し、下剤が不用となった」等、様々な効果となって表れ、その変容を語る職員も張り合いを感じています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念においては一部変更がなされ、理念実現の為に朝礼時に唱和をしている。職員において浸透までには至っておらず、毎日の行動指針となるよう意識付けしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により地域との交流は一時途絶えたが、コロナ禍でも距離を保ちつつ、関係が維持できるよう努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けて季節ごとに広報を発行し、活動・支援の様子を発信している。コロナ前では、地域の方に向けて、健康サロンを開催し、健康寿命の延伸や認知症予防に繋げていただく事ができるよう活動を実践しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	健康サロンの活発な運営に向けた相談や、弊社が取り組んでいる「自立支援ケア」の取り組みの結果・報告を行いました。コロナにより書面開催でしたが、ご意見・ご感想をご返答いただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に運営推進会議を通じて、活動やケアサービスについてお伝えしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束や虐待防止に向け、3か月に一度研修を行っている。日頃の支援の中で、身体拘束と考えられる行為はないか振り返り、話し合いを行っている。玄関やフロアドアの施錠をすることでご利用者様に与える影響について、理解を深めるよう努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年間の研修の中で、学習している。2か月に一度、身体拘束や虐待・不適切なケアが行われていないか、チェックシートを用いて、虐待や身体拘束を未然に防止するよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の研修の中で、学習している。実際に活用をされている方もいらっしゃる。ご相談いただいたときにパンフレットなどすぐに提供できるよう準備しておきたいと考えています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、時間をかけてゆっくりとわかりやすいよう説明している。読み合わせや都度、疑問点を尋ね、納得していただいた上で締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者が日常の中で発せられる言葉や表情より気持ちや汲み取り、ケアに生かしている。ご家族からの要望はケアプラン説明時に、意見や要望を収集するよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議にて意見や提案する機会を設け、環境整備や働きやすい職場環境作りを目指している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談を通じて、個々の目標の把握や、自身の持ち味を生かし、やりがいに繋げていくことができるよう努めている。また、業務を見直し労働環境の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ここ数年はコロナ禍の為、社内研修のみにとどまっている。中途採用においては、教育研修課による研修も開始されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員が同業者と交流する機会は、ほとんど実施されていない。今後相互訪問の機会を持ち、サービスの質の向上に努めたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテーク・アセスメントの段階から、その方をありのまま受け入れるよう努め、ご入居後はコミュニケーションを図りながら、良好な関係を築くことで不安やお困りごとが軽減されるよ関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテーク・アセスメントの段階から、ご家族様の不安やお困りごとの把握に努め、ご入居後の予測をお伝えしたり、お電話や面会時など、わずかな時間でもご本人様の現在の状態をお伝えできるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お困りごとの優先順位の把握に努めている。サービス導入後、改善された場合には自己実現や豊かな暮らしのためのサービスを視野に入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	尊厳を持った対応を基本としているが、時になじみの関係としてフランクな会話をすることもある。暮らしを共にする者同士の意識は薄いですが、御利用者様からは出勤時に「おかえり」と声をかけて頂くことがある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共にご本人様を支えるチームの一員として、ご家族様にはご本人様の現状をお伝えし、その上で、自宅でされていたことやできそうなこと、好きな事などの情報の収集に努めているが、「施設にお任せします。」という反応が多い。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご友人からお手紙やお電話を頂くご利用者様もいらっしゃるが、コロナ禍のため人に会うことや外出の頻度は減ってきている。お年賀状は出来る限りご本人様に書いて頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様お一人おひとりにの性格や生活パターンの把握に努め、お互いが助け合うことで、職員が介入しなくても完結できるよう、座席や役割の割り振りに配慮している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後、移設先にご様子をうかがったり、移設前の生活の様子等をお伝えする機会がなかった。ご家族様とも繋がりが切れてしまっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から、ご本人様のご意向などの把握をし、スタッフ同士の情報の共有に努めている。サービス担当者会議にもご出席頂き、本人本位のサービス提供ができるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居時の情報やご本人様やご家族様のお言葉から、自宅にいらした頃の生活習慣の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりの生活パターンや趣味・能力等の把握に努め、家事やレクリエーション・手作業を提供し、張り合いのある生活をして頂けるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様には御意向をうかがい、意思決定が明確なご利用者様には会議にご出席頂き、望む暮らしの実現にスタッフ同士で話し合い検討している。モニタリングで、サービスの適正や改善点の把握に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の細かな記録を行い、情報の共有をしている。緊急的な変更にも即対応できるように、連絡帳や申し送り、重要事項の共有を図っている。毎日のサービスチェック表記入で、現サービスの実施状況が把握できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズの変化に臨機応変に対応できるように、スタッフ同士が遠慮なく発言できるような関係づくりをしている。重度化や終末期にも対応できるように研修を重ね、家族のニーズにも応えられるよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握や発掘に努め、豊かな暮らしの構築を目指しているが、コロナ禍のため実現が困難。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様の状態やご家族様のご意向により、複数のクリニックから主治医を選択して頂いている。往診前に必要な情報をお伝えし、連携を図っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職が日常の中での小さな変化を看護職に報告相談している。また看護職の視点から往診時に診て頂くポイントのアドバイスが受けられ、柔軟な対応が出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、施設内での生活の様子を、入院中の穏やかな生活やリハビリの一助となるよう情報を伝えている。また、退院後の生活がイメージできるよう退院前の情報収集をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のご意向をご入居時にうかがい、施設での対応の説明を行っている。ご入居後は状態の変化に伴い、都度のご意向の確認を行っている。介護職にはご家族様の思いを伝え、チームとしてベターな支援が出来るよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の初動の対応法は掲示され、それに従い全職員が応急手当・緊急対応・家族への連絡・受診同行・記録が出来るよう随時指導が行われ、情報の共有に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練が計画され、ご利用者様にも参加頂いている。現状の問題点の把握や問題解決に努めている。地域との協力体制は希薄。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を持った対応を基本としているが、時になじみの関係としてフランクな言葉使いをすることもある。トイレや入浴、更衣時はプライバシーに配慮し、排泄の把握における情報交換時の声は特に注意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員と良好な関係を築くことで思いが表出しやすくなるよう努めている。また、「……どうですか?」「……しませんか?」等疑問形で声掛けすることで選択や自己決定、時には断ることもできるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのご利用者様の生活パターンの把握をすることで、生活のペースを大切にできるよう努めている。行事がある時にはあらかじめお伝えすることで、心の準備と期待感を持って頂けるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定ができる方には、服を選んで頂いたり、洗顔後のクリーム塗布など自宅の頃の習慣を続けて頂いている。メイクをすることでお気持ちが高揚する方には、介助させて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の能力に応じて、テーブル拭き・おしぼり巻き・盛り付け等の食事準備を依頼している。また、失敗も助け合いながら完結できるよう、さりげない見守りをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分摂取量は1500cc以上を目指し、味や栄養素を変えて提供している。貧血傾向の対策としてFeジュースを、便秘対策として寒天ゼリー、タンパク質補給としてきな粉を摂って頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人おひとりの口腔状態は月に2回の訪問歯科で把握が出来ている。また、能力や状態、習慣に応じて口腔ケアの声掛けやタイミング、介助法を個別に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間での声掛けや、動作に着目してのトイレ誘導をしている。残存能力を活かして頂くため、介助法の統一を図り、リハビリパンツから布パンツに移行できた方もいらっしゃる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1日の水分摂取量は1500cc以上を目指し、味や栄養素を変えて提供している。便秘対策として寒天ゼリーを摂って頂いている。最近では下剤の頓服をされる方がいなくなった。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎月のお楽しみフロがあり、入浴を楽しんでくださっている。お断りになる方にはタイミングをずらすなどで対応でき、その方のお気持ちも大切にしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて休息して頂くなど、柔軟な対応が出来る。夜はご自分のタイミングで床に就かれるよう出来る限りご希望に沿うようにしている。室温・加湿・掛物の調整で安眠頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用についてはおおむね理解できている。用法用量タイミングはダブルチェックで誤薬の予防をしている。薬の変更があった時には、特に状態の観察や情報の共有が図れている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の趣味・趣向・生活習慣・役割・楽しみ事を把握し、その方の満足されるやり方や楽しみ・やりがいとなるような家事や手作業・レクリエーションを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り、散歩の機会を提供している。コロナ禍のため、頻度は減ってしまったが日常から離れた場所への外出も提供している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はご家族様にして頂いているが、職員はご利用者様が、社会的な意味合いからお金の心配をされていることは理解している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様やご友人からお手紙やお電話を頂くご利用者様もいらっしゃるが、施設側からお電話をかけることはない。お手紙のお返事は書けない方が多く、書ける方にはポストに投函までサポートを行った。お年賀状は出来る限りご本人様に書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部の掲示物は季節感に合わせて変更し、屋内においても季節を感じて頂けるよう努めている。また、掲示物のご利用者様に作って頂き、目に入ることでやりがとなるよう配慮している。トイレやお風呂等は分かりやすく文字での表示がされている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	性格や能力・互助等に配慮し、席替えを行っている。食事時以外はお好みの場所に移動し、思い思いにお過ごし頂いている。ご自分のタイミングで自室でお過ごしになられる方もいらっしゃる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅での馴染みの家具や、生活用品をお持ち込み頂き、心地よい生活を営んで頂けるよう努めている。逆に、馴染みの品があることで混乱される方には、シンプルなお部屋で生活して頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人の出来ること・分かること・能力・体力等の把握に努め、環境面を整えることで安全で自立した生活ができるよう工夫している。		